



すえちゃん

# しりょうかんだより



どうたくん

No.14

## 「夏休みこども月間」夏休みは資料館を探検して歴史にふれてみよう！

郷土資料館では、8月1日(火)~8月31日(木)に「夏休みこども月間」を開催します。(月曜休み)

資料館内を探検しながらポイントラリーを楽しむことができます。

- ・何分で火がおこせるかな！？ 火おこしにチャレンジ！
- ・すり石・石ざらをつかって大豆をすってみよう！
- ・黒曜石をつかって紙をきってみよう！
- ・土器復元に挑戦！もとの形にもどせるかな？
- ・むかしの道具 これな～んだ？

など盛りだくさんの内容です。ぜひ、資料館にあそびに来てください。



## 知ってる?! とよたのれきし

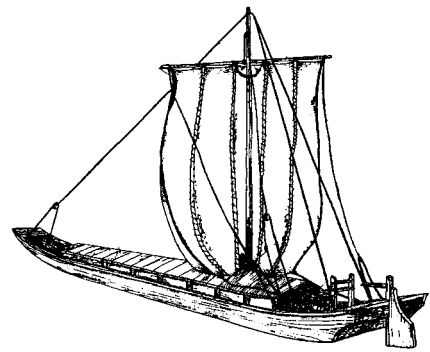
### 「矢作川を帆かけ舟が行き交った」

みなさんは、豊田市の中心を流れる矢作川を見たことがあると思います。昔、この川を帆かけ舟が行き交っていました(想像できますか?)。帆かけ舟は、人や物を運びました。海岸地域の産物、魚、塩、海草などを山間地域に運び、反対に山間地域の産物、材木、薪、炭、たばこ、薬草などを海岸地域に運びました。

川岸には荷物を下ろす場所があり、土場と呼ばれていました。拳母の土場は久澄橋のたもとにありました。現在は石積がのこっています。

川は、上流に行くとだんだん狭くなり水量も減るので

舟が通れなくなります。矢作川は現在の平戸橋付近にあった古鼠土場(扶桑町)まで舟が上りま



した。そこから、さらに山間地域の足助・稲武方面へは馬が荷物を運びました。

舟は昭和のはじめ頃、トラック輸送が増えると、次第になくなりました。

ミニメモ：矢作川本流の長さは、117kmあるよ。



拳母の土場の様子

# きせつのはなし —お盆—

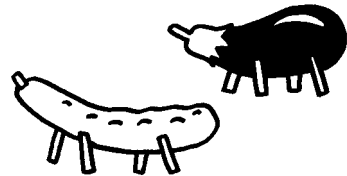
盆は、正月とならんで日本人にとって伝統的な行事です。盆に、仏壇の前に盆ちょうちんをかざり、川原や辻、家の前などでご先祖様を迎える「迎え火」をたくのは日本各地で見られる光景です。

盆に先祖の霊（仏様ともいう）を迎える行事を、「精霊迎え」と言います。精霊を迎えるために、13日の夜に家の前でたく火を「迎え火」と言います。これは先祖の霊の足元を照らすという意味と同時に、先祖の霊にとって危険な悪霊を追い払うという意味もあるのです。

盆には、キュウリやナスなどの畑の作物、小麦粉やそうめんなどを供えます。先祖の霊は、馬に乗って荷物を牛に背負わせて帰ってこられるといわれ、キュウリやナスで牛馬を作ったりもします。

盆に他界から迎えた先祖の霊は、盆が終わるとまた他界に帰っていきます。16日に家の門前や墓地で各家庭がそれぞれ「送り火」をたきますが、村全体で行う大きな火祭りの行事もあります。観光行事として京都や箱根など各地で行われる「大文字焼」も、もとは盆の先祖の霊を送る火祭りの行事です。また供え物や飾ってあった灯籠を川や海に流す「精霊流し」という行事を行う地方もあります。先祖の霊があの世界から舟に乗ってやってきて、盆が終わるとまた舟に乗って西方浄土に帰っていくと信じられていたからです。

現在では、盆は死んだ人の霊を供養する性格が強いのですが、仏教の影響を受ける前は、家族が健康で盆を迎えられたことを祝うめでたいものでした。



## 民具

M I N G U

## え かがみ 柄 鏡

昔の鏡は、青銅製でした。表面が磨かれ、裏面には鶴や亀、松竹梅といった縁起の良い模様が彫られていました。ほとんどが円に持ち手がついた形で柄鏡といい木の箱に入れられていました。昔から鏡には、特別な力が宿ると考えられ、邪悪な(悪い)ものを跳ね返すともいわれてきました。そのため、鏡は神社に祀られたり、女性のお守りとされたりしました。こうした考えから、昔の人は、普段は鏡にふたをしたり、布をかけて隠したりしました。



え かがみ  
柄 鏡

しりょうかんだより No.14

平成18年7月27日発行

編集・発行 豊田市郷土資料館

〒471 0079 豊田市陣中町1 21

でんわ 0565 32 6561

URL <http://www.toyota-rekihaku.com>

E-mail [rekihaku@city.toyota.aichi.jp](mailto:rekihaku@city.toyota.aichi.jp)

郷土資料館は、みなさんが住む豊田市の歴史を紹介したり、大事な資料を集めたり、遺跡の発掘調査などを行っています。